

5・3 憲法集会 in 京都 集会アピール

いま、世界の平和が破壊されています。アメリカやロシアなど大国の指導者が、歴史を顧みず、法を破り、人々の生命と尊厳を奪い、環境を壊し、経済を混乱させています。ウクライナで、ガザで、そしてイランで、いまも多くの人たちが戦禍に傷つき脅えています。日本のあり方は、世界からも問われています。

3月19日、トランプ大統領と会談した高市早苗首相は、「世界中に平和をもたらせるのはドナルドだけだ。諸外国に働きかけてしっかり応援したい」と語りました。高市首相、「国際法に基づく国際秩序を維持・擁護する」、「力による一方的な現状変更を許さない」、これが日本政府の立場ですよ。明らかに矛盾していませんか。イラン攻撃を支持しないというのが圧倒的な世論ですが、世論は無視ですか。

そのようななか、はっきりしたことがあります。自衛隊の戦争協力を、何とか止めているのが、憲法9条だということです。

今年2月の衆議院総選挙で圧勝した高市自民党は、日本維新の会と一緒にあってすさまじい「暴走」をつづけています。衆議院の予算審議は、与党の数の力で強行されました。人権保障に逆行する法案が次々と狙われています。国家情報会議・情報局設置法案は、「世論工作」と「思想調査」に道を開きます。衆議院の定数を45削減し国民の声を国会に届きにくくする法案、良心や表現の自由を脅かす「国旗損壊罪」を設ける法案などです。

衆議院では自民党単独で3分の2を超えたことから、9条改憲や緊急事態条項創設に向けて動きが強まっています。憲法審査会での議論も強行されかねません。さらに高市政権は、殺傷力のある武器の紛争国への輸出まで可能にするとし、軍事費のさらなる増額、軍事費確保のための「防衛特別所得税」の導入も目論んでいます。「長期戦への備えの必要性」から「安保三文書」を前倒しで改定し、武力攻撃に備えシェルターを確保するとしています。そしてとうとう、「日本は核を保有すべき」という政府高官まで現れました。高市政権は、戦争の準備を進めている政権、経済成長のためなら戦争も利用する政権です。危険すぎます。現に京都府内でも祝園や舞鶴では、戦争準備と出撃拠点化が進んでいます。

いま私たちに求められているのは、この政権の危険性を広く明らかにし、この政権下での改憲など許されないという圧倒的世論をつくっていくことです。日本をアメリカとともに「侵略する国」にさせてはなりません。そして改めて、憲法9条の価値をそれぞれの言葉で大いに語っていくことです。いま、国会前には、戦争の悲惨さを目にして、黙ってられないというペンライトをもった若者や女性が押し寄せています。京都をはじめ全国各地で、自主的なスタンディングも行われています。アメリカでも先日、800万人を超える市民が反戦の声をあげました。私たちもここ京都から、平和を求める世界の市民とつながっていきましょう。権力者による、圧政と偽りに屈することなく、「戦争は絶対にいけない」と発しつづけていきましょう。憲法9条を守り生かしましょう。

2026年5月3日 生かそう憲法 守ろう9条 5・3 憲法集会 in 京都 参加者一同